

令和4年度 第3回中津川市総合計画推進委員会 主な意見

日時：令和4年10月11日(火) 13:15～15:00

場所：健康福祉会館 4階 多目的ホール

議事1 総合計画後期事業実施計画における戦略的施策について

・事務局より

「【資料1】令和4年度中津川市総合計画推進委員会提言書(案)」11p「部会報告書(まとめ)」により報告

議事2 令和4年度 中津川市総合計画推進委員会提言書(案)について

・事務局より

「【資料1】令和4年度中津川市総合計画推進委員会提言書(案)」により構成の説明
委員長より総論部の説明

・令和4年度 中津川市総合計画推進委員会提言書(案)の採択

全会一致にて令和4年度中津川市総合計画推進委員会提言書(案)を、令和4年度を総合計画推進委員会の提言書とすることに決する。

議事3 中津川市総合計画後期事業実施計画(案)について

・事務局より

「【資料2】中津川市総合計画後期事業実施計画(案)」「【資料3】後期事業実施計画(案)概要」により説明

・主な意見

【委員意見】

・人が集い、安心して暮らせる戦略の中に福祉の部分があまり記述されていない。例えば病院問題や福祉の高齢化問題などについて、この戦略の中に網羅されるという解釈でよろしいか。

【事務局回答】

・この戦略は、基本施策から特に抜き出して取り組むものであり、戦略の中には、医療福祉は入っておりません。基本施策には当然医療福祉があり、当然のこととして取り組んでまいります。戦略に記載がなくとも重要であると考えております。

【委員意見】

・リニアを活かす戦略において、どういう街にするかというイメージが浮かんでこない。道路を作るようなことしかでていないが、街づくりをどういったイメージにしたいのか。

【事務局回答】

・リニアを活かしたまちづくりのイメージについて、計画策定の過程で関係団体の方からも同様の意見をいただいております。まだリニアに向けて整備を進めている最中であり、イメージをお伝えすることが難しい中で、現在VR映像の作成に取り組んでおります。今後、このような街になっていくというイメージをそのVRの中で示せるのではないかと考えております。

【委員意見】

・公共のみだけではなく、民間活用ということをもう少し入れると、ダイナミックな仕組みができるのではないか。

【事務局回答】

・民間活力について、駅周辺において民間活力の可能性も検討しております。計画として入れさせていただくかは別として、間違いなくそういった民間の力を最大限活用させていただきたいと考えております。

【委員意見】

・若者の定住戦略の中で、人を増やそうというソフト事業はわかるが、車両基地に千人ぐらい雇用されるとすると、その人たちをどのように住ませるか、或いは総合計画の中には名古屋、東京から人を呼び込むとなっているが、インパクトが非常に弱い。具体的に何人増やす、或いは民間と連携して、住宅をあっせんするという点について記述があってもいいのではないか。住宅団地を作るなど、そういった具体的な住宅施策があってもいいのではないか。

【事務局回答】

・定住について、後期事業実施計画期間中の4年間では、車両基地の雇用に対する住居の基盤整備まで進まないと思います。我々もご意見のとおり、住む場所と働く場所はセットで考えております。当市は令和2年の国勢調査の結果を見ても、隣の恵那市と比べても、人口減少率が抑えられており、引き続き、住む場所と働く場所について重視し、戦略に位置付けて取り組んでいきたいと考えております。しかしながら、市で住宅団地を整備する計画はございません。

【委員意見】

・大型事業について、火葬場を断念したという報道があったが、それについてはどのように進めていくのか。

【事務局回答】

・今般、苗木地区での建設は見送るという判断がなされました。しかしながら、必要不可欠な施設ですので、メモリアル施設整備事業として、場所の選定から再度し、後期4年間の中では、候補地を選定し、工事の着手まで行いたいと考えており、計画書に明記しております。

【委員意見】

・計画をどのように進めるかというところが非常に重要である。市の将来都市像としてかがやくという言葉があるが、進めようとする組織そのものかがやきや活気といったものが重要ではないか。アイデアを生み出す、アイデアを掘り起こす。そしてそのアイデアをピックアップして大胆に活用していくという姿勢が出てくれば、市役所全体も活気あるものとなり、市民も自ずと、そのようになっていくのではないか。計画の進め方についても工夫していけると良い。

【事務局回答】

・ご意見のとおり、計画策定に際して関係団体からも、計画書の実行が大事だということを意見としていただいております。その中で一例ですが、ルビットタウンの前に都市緑地公園の活用について、管理する管理課、都市計画を作る都市計画課、我々政策推進課、中心市街地を所掌する商工観光部など分野横断的に、若手を中心に月に一度はイベントをやりたいと、継続して取り組んでおります。アンケートを取っても毎回良い結果で、緑地公園が活きる取り組みがなされているところで、これ自体は小さな話かもしれませんが、分野を横断して一丸となつて一つのものを作り上げて行く姿勢が必要であると実感しております。

【委員意見】

・中期事業実施計画までを実施して、成果も上がっていると考える。その成果をもっとアピールしても良いのではないか。人口についても計画人口よりも2400人上回っているというのは、市民の方々に伝えたい。合計特殊出生率が1.58というのは、他の地域に比べても高い数字である。当然、まだ出来ないことも多くあるが、この計画に取り組んで成果としてこういった物が出ているということをもっと高らかにアピールしても良いのではないか。ここはまだ出来ない。あそこはまだ出来ないという考え方は、中津川市らしいといえば中津川市らしいが、出来ているところも住みやすいまちづくりの成果としてしっかりとアピールすることが市民の誇りや愛着の醸成、ひいては定住につながるのではないか。

議事4 市民意識調査（結果まとめ）について

・事務局より

「【資料4】「市民意識調査結果のポイント」「令和4年度市民意識調査（結果まとめ）」により説明

令和4年度事業評価検証について

・主な意見

・昨年からは部会制をとることで、なるべく多くの検証事業を選択し、様々な協議に各部会で取り組んだことは非常に良かった。委員の方々からの様々な意見をざっくばらんに伺うことができたのは非常に大きく、検証事業に対するその理解度も、少しずつ深まってきたと感じる。以前から横断的という言葉が出てきているが、今回の部会を開催した際にも、職員の視点の中で、横断的に取り組みが行われているという実情が垣間見え、実際に既に取り組んでいることが感じ取れた。行政全体では縦割り行政という感じ方が未だにあるが、若い世代の中ではすでに横断的に取り組みが始まっているところに関しては非常に高評価でいいのではないか。

・今年の各部会では横断的な取り組み、やり取りが多く見えた。委員からの質問等に関係なく市の内部で意見が交わされるということもあったので、普段の仕事の中でそのようなやり取りが出来ていると良い。本委員会があることによって話し合いが出来るということではなく、普段から連携し、横断的に取

り組めると良い。

・指標の出し方は随分わかりやすくなったが、まだまだ道半ばであると思うので、市民目線で市民ならどうだというような視点でやってもらいたい。また、コロナになってから非常に環境の変化が速くなっており、実施計画を4年で計画したからといって固定させるのではなく、随時、見直しを行ってけると良い。